

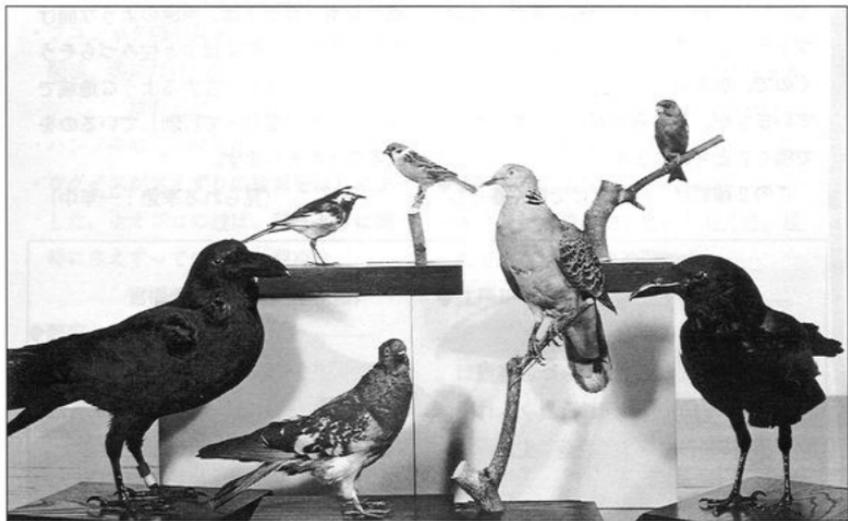
市川自然博物館

4・5月号

(通巻73号)

だより

鳥Ⅰ『身近な鳥』 の特集



△今回ご紹介する種類です。大きさを比べてください。

上段左から：ハクセキレイ、スズメ、カワラヒワ

下段左から：ハシブトガラス、ドバト、キジバト、ハシボソガラス

鳥 I の特集



『身近な鳥』



平成13年度の特集は『鳥』です。鳥類は、動物の中では哺乳類について身体が大きく、目につく存在です。しかしそのわりには、日常生活の中で、種類がきちんと区別されているとはいえません。このシリーズでは、野外では観察しづらいポイントを、標本を用いて紹介していきます。

●ハシブトガラスと

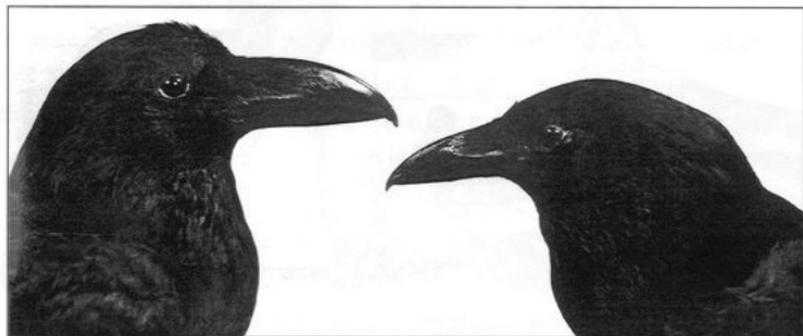
ハシボソガラス (カラス科)

ふだん「からす」と呼んでいる鳥には、実はこの2種類がいます。外見上の一番の違いはその名の通り、嘴(くちばし)が太い(ブ)か細い(ソ)かです。また、ハシブトガラスの方はカーと澄んだ声で鳴くので、鳴き声でも区別できると言われていますが、どちらもガーと濁った声で鳴くこともあります。

この2種類は、外見だけでなく暮らし

ぶりも多少違います。町中でゴミ袋を散らかすのは、ほとんどハシブトガラスです。もともとは森林のような場所に生息していましたが、住宅が密集した都会にも上手に適応して暮らしています。その点ハシボソガラスは、河原のような開けた場所を好み、町中は少々住みづらそうです。郊外の畑が点在するような地域では、2種類が混じって行動しているのを見ることがあります。

(見られる季節：一年中)



△全体の姿はよく似ているが、頭や嘴(くちばし)の形に注目すると区別しやすい。

- ・ハシブトガラス(左)…頭が丸くおでこが少し出っばって見える。嘴は太い。
- ・ハシボソガラス(右)…頭も嘴もほっそりとしている。嘴は細い。



△スズメ若鳥(左)…全体の色が淡く黒い斑紋がハッキリしない。嘴の根元は黄色。
スズメ成鳥(右)…全体は茶色、腹は白。白い頬や喉の下に黒い斑紋。嘴は黒い。

●スズメ (ハタオリドリ科)

しばしば鳥の図鑑の説明で、大きさや姿の物差し代わりに使われるのですが、あまりに身近すぎて、観察されていない種類です。

市川周辺では春から夏かけて繁殖し、若鳥は巣立ってからもしばらくは親と一緒に行動します。群れの中から成鳥と若鳥を区別して見るだけでも、若鳥が羽を震わせて親鳥に餌をねだる様子などいろいろな行動や、群れの構成や数が季節や場所によって違うことなどに気づきます。

(見られる季節：一年中)



△カワラヒワ

嘴は太くて短く、硬い種子でも割ることができる。

●カワラヒワ (アトリ科)

大きさがスズメと同じくらいなので、目についてもスズメと混同されてしまうようです。行徳の街路樹などでも、巣をつくり、人知れず子育てをしています。

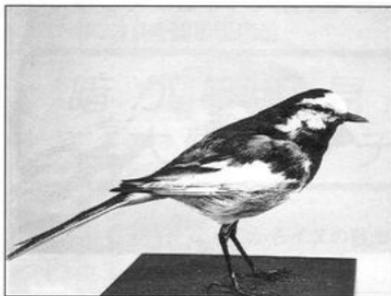
全体は黒ずんだ緑色をしています、パッと羽ばたいた時に、羽の黄色い帯がよく目立ちます。冬は郊外に移動して、集団で行動します。時折、立ち枯れたヒマワリの実を食べに庭先を訪れます。

(見られる季節：一年中)



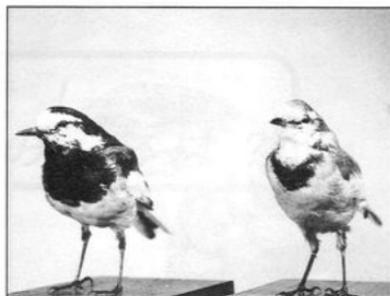
△尾の形(左：スズメ 右：カワラヒワ)

カワラヒワの仲間は、尾羽の先端がV字形に切れ込んでいるのが特徴。



△ハクセキレイ

長い尾、横に長い姿勢、
目を通る黒い線（過眼線）が特徴。



△成鳥（左）・若鳥（右）

若鳥は全体が灰色がかっており、
過眼線など模様ははっきりしない。

○ハクセキレイ（セキレイ科）

長い尾を上下に振りながら歩く、白黒のスマートな姿をした種類です。人が近づくと、チッチチッと鳴きながら、波状の軌跡を描いて飛びます。

以前は冬にしか見られない種類でした。十数年ぐらい前から、しだいに町中に進出してきて、今では普通に見られる種類になりました。もともとは水辺の鳥なので、真間川や大柏川などの近くでよく見られます。（見られる季節：一年中）



○キジバトとドバト（ハト科）

普通に「はと」と呼んでいる鳥にも、実は「からす」同様、2種類います。

公園や神社で見られる「はと」のほとんどはドバトです。日本には生息していない、カワラバトという種類からつくられた家禽で、飼われていたものが野生化しました。一方キジバトは林のほか公園などにもいて数羽ずつで行動し、ドバトのように群れることはあまりありません。

暮らしぶりも異なり、マンションのベランダに巣をつくり、しばしば問題となるのはドバトです。キジバトは街路樹や庭木など、木の上に巣をつくります。枝を粗雑に敷いただけの簡単なつくりで、しばしば卵ごと放棄してしまいます。

（見られる季節：一年中）

◁キジバト（左）

首には黒と青灰色のうろこ状の模様、
背中では赤茶色。

ドバト（右）

首に青緑色の光沢があることが多い。
写真のものは黒っぽい体色だが、
色は真白から黒やぶちなど様々。



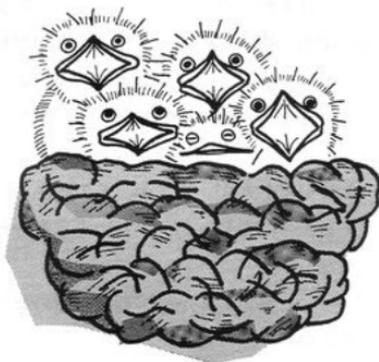
街かど自然探訪

おじゃまします!

みなみやわた

南八幡番・高架下のツバメの巣

JR本八幡駅南口から下総中山に向かって高架下を歩くと、すぐ上にツバメの巣がいくつかあるのを、見つけることができます。ツバメは、3月下旬頃から市内に姿を見せはじめ、町中を飛びまわり巣作りを始めます。4月の中旬頃には、大きく口を開けたヒナに、盛んに餌を運んでいる親鳥の姿が観察できるかも知れません。ちょっとした合間にも、高架下のツバメの巣の様子をのぞいて見てはいかがでしょうか？



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



クマガイソウ

変わった形の大きな花が山野草としての人気に結びついたため、大量に掘り取られ、絶滅が心配されるまでになりました。本来は決して珍しい種類ではないのですが、誰も彼もと掘ってしまえばひとたまりもありません。市川のような都市部では、そもそも掘る人は多く、掘られる植物は少ないという逆転状態にあります。何らかのきっかけで特定の種類に対して強い採集圧がかかれば、たちまち姿を消してしまうのです。



・種子植物
ラン科
・絶滅危惧Ⅱ類

暗がりで見えた！ 大物ウンチの正体は？

「3月4日、暗くなってからイヌの散歩に出ました。糞の始末をしようとかがむと、近くには「大物ウンチ！」……よくよく見ると、カエルでした。車に轢かれないようにと、そばの家のお庭に入れてしまいましたが、まさか、その庭から出てきたところじゃあ、かわいそうだったかな」

—ヒキガエルが、ご近所の庭の池に産卵に行く途中だったのでしょう。

(情報提供：水垣麻理子さん)



むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答の原文のまま)

- ・江戸川橋から市川橋と変わる前の江戸川橋の頃は川辺なぞ水草、野菜多く、里見公園を目指してお花見客、三味線を鳴らして鶉之台練兵場を右に折れ真間山弘法大師に詣り石段を下りて真間川手児奈様を中心に素晴らしい桜並木に恵まれ風致致地区と指定された丈緑多く里見園に通ず桜のアーチも1等でした？(市川)
- ・家の近くに小川が流れ農繁期には苗運びや稲運びの舟が行き交っておりました。(昭和10年頃) (新井)
- ・4月頃産卵のため鮒や鯉が水草に集まり、水音が聞こえる程でした。(原木)
- ・二俣地区のたんぼの中に小さな用水池がいくつもあったのでフナ、ウナギ、ライギョがたくさんいた。「かいぼり」してたくさん取れた。(二俣)

わたしの
観察 ノート
 No. 55

◆大町公園より

- ・ヤマシギがこの冬も姿を見せました。斜面ぎわを歩いていました(1/9)。
- ・ノウサギの足跡が雪の積もった園路にくっきりとついていました(1/21)。
- ・ニホンアカガエルの卵塊を見ました(2/26)。24日の雨の前後に、集中して産卵があったようです。

金子謙一(自然博物館)

- ・トモエガモを見ました。雄の顔の模様が特徴的です(1/19)。

小川晃(自然博物館)

- ・フユシヤク類を見ました。この蛾の仲間は、冬にだけ発生します(2/2)。

清野元之(自然博物館)

- ・ハンノキの花が咲き始めました(2/2)。
- ・ウグイスがさえずりの練習をはじめました。ホオジロの雄は、競うように同時にさえずっていました(2/23)。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆国府台江戸川周辺より

- ・オオタカを見ました。数羽のカラスに囲まれても反撃していました(1/28)。
- ・ヒバリのさえずりを今年のはじめて聞きました(2/10)。

◆里見公園より

- ・アトリ、ビンズイ、奥の池ではカワセミを見ました(2/4)。

◆堀之内周辺より

- ・道免き谷津でキジを見ました(1/1)。
- ・堀之内貝塚のシラカシの枝にフクロウがいました(2/18)。

◆じゅん菜池公園より

- ・カモメを5羽見ました。海が荒れたせいか、ここでは初めてです(1/8)。

◆小塚山市民の森より

- ・カラ類の中にエナガが3羽混じっていました(2/17)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆拍井雑木林より

- ・ノウサギの糞を見ました。
- ・マヒワの群れが、駐車場のアスファルトの上で餌を食べていました(1/16)。

宮橋美弥子

◆南八幡周辺より

- ・キタテハが飛んでいました(2/22)。成虫で越冬する蝶の仲間です。

◆江戸川放水路より

- ・オオジュリンを見ました(1/30)。普段は観察しづらい鳥も、先日の雪で草が倒れよく見られました。

以上 金子謙一

◎1月は3回雪が降りました。2月に入ると、寒暖を繰り返しながら、しだいに春めいてきました。



行 事 案 内



自然観察会

申込の必要な行事です

毎月テーマを変えて、市内各所に出かけます。内容により対象が異なります。

テーマ	対象	日時	場所	受付開始
春の昆虫	親子	5月13日(日)午前	長田谷津	4月21日～
干潟の生き物	指定なし	6月10日(日)午後	江戸川放水路	5月19日～

〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

散策会(長田谷津)(柏井雑木林)

申込の必要はありません

ゆっくりと散策しながら、四季それぞれの自然を楽しみます。

○長田谷津…かつて「長田谷津」と呼ばれていた大町公園の自然観察園です。

- ・日時 毎月第1土曜日(8月は除く) 午後1時30分～3時
- ・集合場所 動植物園券売所前

○柏井雑木林…市内で一番大きな雑木林です。

- ・日時 毎月第3土曜日 午後1時30分～3時
- ・集合場所 市民キャンプ場 管理事務所前

※雨や大風など、天候不良の場合は中止です。

※はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください(交通手段等ご案内します)。詳細についても、お気軽に博物館までどうぞ。

野草名札付けのお手伝いをしてくださいませんか。

大町自然観察園で、学芸員といっしょに野草に名札をつけるお手伝いをしてください。

- ・日時 毎月第1土曜日(8月は除く) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入口

※雨や大風など、天候不良の場合は中止です。

※はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください。

詳細についても、お気軽に博物館までどうぞ。

平成13年度自然博物館行事案内

できました。

ご希望の方は80円切手同封の上、
博物館までお申し込みください。

市立市川自然博物館だより
第13巻 第1号 (通巻第73号)
発行日/平成13年4月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>